（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ジョイーレ石垣（第2単位）			
○保護者評価実施期間	2026年2月3日		～	2026年2月15日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	29	（回答者数）	9
○従業者評価実施期間	2026年2月3日		～	2026年2月15日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月2日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い多職種チームによる個別支援	言語聴覚士（ST）、保育士、経験豊富な児童指導員といった専門職が在籍しており、それぞれの専門性を活かした支援を行っている点が大きな強みです。 また発達支援プログラムに基づき、利用児一人ひとりの特性やニーズ（バリアフリー化や時間の可視化など）に合わせた個別支援計画を丁寧に作成しています。週1回の定例会議や随時のショートミーティングを通じて、常に支援内容をアップデートしている点も、質の高いケアに繋がっています。	専門職それぞれの強みを活かし、専門的支援プログラムを策定して支援を行います。 特に、①言葉とコミュニケーション、②時間を自分のものにするトレーニング、③自分と相手を大切にするための身体と心の境界線（バウンダリー）学習、④生活の中でのお金の使い方など、将来の自立につながるプログラムを立案し、利用児一人一人のニーズに答えていきます。
2	デジタルツールを活用した迅速かつ透明性の高い情報共有	連絡帳アプリ「HUG」や「LINE」を積極的に活用し、日々の活動の様子を写真付きで報告したり、保護者からの相談に迅速にレスポンスしたりする体制を整えています。保護者が「今、自分の子がどのような支援を受けているか」を可視化できている点は、安心感と信頼感を生む強い要因となっていると考えます。 また連絡の「見落とし」を防ぐためのタグ付け管理や、支援チーム内でのLINEWORKSを利用した情報共有の仕組みがあり、日々の支援の充実と効率化につながっています。	日々の写真報告に加え、お子さんが目標を達成した瞬間や、集中して取り組んでいる短い動画の共有を検討します。文章だけでは伝わりにくい「できた！」の感動をリアルタイムで共有し、保護者との信頼関係を深めます。また、同時に特に言葉でのコミュニケーションが難しい利用児の「できた」を保護者や学校と共有することで、将来への可能性を広げることを目指します。
3	保護者や学校と密に連携する「伴走型」の支援姿勢	事業所内だけで完結せず、保護者面談、さらには学校との情報交換まで幅広く行い、子どもの生活全体を捉えた支援を行います。 モニタリング面談で目標達成度を丁寧に共有するだけでなく、日頃の困りごとや将来に向けての不安などについても一緒に考え、対策を検討します。また保護者の孤立を防ぐため、地域の親の会の情報提供を行うなど、家族の支援も今後さらに積極的に行なっていきたいと思います。	・事業所主催の「ミニ勉強会・座談会」の開催 就労やグループホームの情報など進路についての「保護者向け研修会」を、オンラインや少人数の茶話会形式からスタートさせることを目指します。 ・中高生による「地域貢献・就労体験」の開拓 「地域との交流」の一環として、ビーチクリーンや近隣の清掃活動などをプログラムに取り入れます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	防災・安全管理に関する情報共有の遅れ	BCPは策定され、各マニュアルは策定されているものの、保護者への具体的な周知や説明が「ほとんど行えていない」という現状があります。 避難訓練の報告が「参加した日のみ・参加した子のみ」に限定されているため、通所頻度が少ない保護者や、たまたま訓練日に当たらなかった保護者からすると「本当に訓練をしているのか」「災害時にどう動くのか」が見えにくく、安心感に欠ける可能性があります。	・「防災・安全ハンドブック」のデジタル配布 既存のマニュアルを要約し、LINEWORKSやHUGでいつでも閲覧できる「デジタルハンドブック（PDF）」として配布を検討します。「地震の時はここに避難する」「緊急連絡はこのルートで行う」といった要点を1枚にまとめ、周知不足を解消します。

2	「環境構造化」の専門的なアプローチの不足	中高生が中心で「狭さを感じる」という物理的制約がある中で、自閉症特性などに配慮した「視覚的な構造化（場所と活動の明確な分離）」が意識されていないために、衝動性のコントロールや集中力の維持が難しい利用児にとって、ストレスを感じやすい環境になっていることが懸念されます。	「ゾーンニング（場所の意味付け）」や、視覚的支援（ビジュアルサポート）についての知識を深め、療育室に導入できる方法を検討します。場所の意味づけやすべき行動を理解するための文字、ピクトグラムなどの工夫により、スタッフが口頭で指示する回数を減らし、子どもたちが「自分で見て、自分で動ける」環境にすることを目指します。
3	家庭・地域に対する「プラスアルファ」の支援の未着手	「家族会」「きょうだい支援」「地域交流」「事業所主催の研修会」といった、利用児本人への直接支援以外のプログラムが、現状では「検討中」の段階に留まっています。中高生という「将来の自立（社会移行）」が目前に迫った時期において、地域社会との接点が少ないことは、卒業後の生活範囲を狭めるリスクがあります。また、保護者が抱える「将来への不安」や「きょうだい児への配慮」といった家庭全体の課題に対して、まだ十分なサポート体制を構築できていない点が弱みと言えます。	・「オンライン保護者カフェ（座談会）」の試験導入 まずはLINEやZoomを用いた30分程度の「お悩み共有会」からスタート、テーマを「進路について」「お小遣いの管理」など中高生特有の悩みに絞ることで、参加率を高めます。 ・中高生の希望を聞きながら、ビーチクリーンや近隣のゴミ拾いといった、小さな社会貢献プログラムを導入し、地域との接点を作っていきます。 ・きょうだい児支援についてはニーズを掘り起こすところから始めていきたいと思います。

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ジョイーレ石垣（第2単位）

公表日 2026年3月31日

利用児童数 29　　回収数 9

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7	2				中高生中心のためやや狭さは感じますが、必要に応じ机の位置などを変更して対応しています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	7	1		1		指定されている職員数で対応しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5	2		2		特に意識して構造化などしている場所はないが、整理整頓し、子どもたちにとっても職員にとってもシンプルでわかりやすいように室内を整えています。利用児それぞれのニーズに合わせ、バリアフリー化、情報伝達の工夫などを取り入れるようにしています（例：時間の経過がわかる時計、など）
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6	2		1		毎日清掃を行い、室内を清潔に保つようにしています。どちらとも言えない、というご意見が複数あるので、改めて気になる点を見直していきます。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8	1				経験の長い児童指導員、保育士、言語聴覚士等が利用児の特性に応じ、専門性のある支援を行っております。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	8	1				ジョイーレの支援プログラムに基づき、利用児の特性に応じて支援計画を作成しています。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8	1				保護者面談、通所、訪問時の様子、学校との情報交換などから情報を収集し、保護者のニーズや課題をミーティングなどで支援チームと共有、検討して支援計画を作成しています。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7	1		1		支援計画は保護者面談の際に内容を確認し、「本人支援」「家族支援」「移行支援」の各項目がより具体的に、本人と保護者のニーズに沿った内容になるように、設定することを心がけています。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8	1				支援チームはHUG（連絡帳アプリ）で日々支援計画に基づいた支援と報告を行っています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6	1		2		週１回の定例ミーティング、随時のショートミーティングなどで利用児の状況やプログラムについて話し合い、現在の支援が適切化見直しを行っています。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	2		4		中学生中心のメンバーであるため、今後地域との交流については利用児の希望も聞きながら検討していきます。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8	1				ご利用スケジュール、プログラム、利用者負担額については、初回面談の際にご不明な点がないように説明しています。また面談後もHUGやLINEWORKSなども利用しながら、疑問点にお答えして対応しています。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8	1				モニタリング面談では支援計画をお示ししながら、目標達成できたこと、これからの課題などについてお話しています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5		1	3		八重山自閉症児の親の会ちむほっとさんのゆんたく会などの情報提供を行っています。事業所が主催する保護者向けの研修会などについては今後検討していきたいと思います。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	8	1				お迎えに来ていただく保護者には、今日の様子をお話しながらお家の様子もお聞きしてコミュニケーションを取るようにしています。また、HUGには今日の活動の様子を、時には写真も使用してご報告しています。

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	1		1		定期的なモニタリング面談を行い、支援の内容の見直し、子育ての困りごとのご相談などにも対応しています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8	1				利用児や保護者の気持ちに寄り添い、保護者と支援チームが一緒にお子さんの育ちを応援していけるよう引き続き努力していきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	1	3	4		家族会、きょうだい支援は今のところ行うことができていません。今後、そのような機会が作れるように検討していきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8	1				保護者との連絡は電話、またはLINEで行っており、ご相談ごとにも対応しております。また連絡があれば児発管、支援チームが見落としの無いようにタグ付けするなどして、素早い対応を心がけています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8	1				利用児とはできるだけコミュニケーションが取れるよう、対応するスタッフ、話を聞く環境、タイミングについて支援チームを中心に検討し、支援をしています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	7	1		1		ジョイーレのHPにて発信されています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8			1		個人情報の取扱については繰り返し研修を行い、また就業規則によってスタッフ一人ひとりが退職後も外部に漏らすことがないようにしています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2	1		6		事故防止、災害、緊急時対応、防犯、感染症等マニュアルは策定されていますが、保護者への周知、説明はほとんど行えていません。また避難訓練については行った日のHUGにて報告しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1	1		7		避難訓練は行っていますが、毎日連続で行うなどではなく、その都度参加した利用児のHUGで報告しているため、確認していただくことができていません。できるだけ全ての利用児に参加してもらえるように機会を作っていきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	4	1		4		事業所の防災計画等を保護者にお示しすることはできていませんが、避難訓練の様子などを定期的にお知らせすることで計画的に対策が行われていることをご理解いただけるようにしていきたいと思います。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5	1		3	これまで事故はない	事故が発生した時には安全対策マニュアルに基づき、速やかに対応し、保護者にも連絡いたします。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	9					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	6	1		2		「どちらともいえない。」「わからない」とのお答えが複数あることを真摯に受け止め、楽しく通所していただけるようにプログラムや環境の調整を行なっていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	8	1				

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	ジョイーレ石垣（第2単位）

公表日 2026年3月31日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		・周囲の音などで集中できなかったり、周りの様子が気になってしまう子どもの場合は、パーテーションや少し奥まったスペースを利用して刺激を減らすような工夫をしている。	・こどもたちが大きいので、多少狭さを感じるときもありますが、移動できる机でのスペースの確保、刺激を減らすための場所の移動やパーテーションの使用などで快適に過ごせるよう工夫しています。 ・クールダウンスペースがないので、今後検討したい
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4			指定されている職員数で対応しています。 今後専門的支援や訪問支援の充実のためにスタッフ数の充実も目指します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	1	特に意識して構造化などしている場所はないが、整理整頓し、子どもたちにとっても職員にとってもシンプルでわかりやすいように室内を整えています。利用児それぞれのニーズに合わせ、バリアフリー化、情報伝達の工夫などを取り入れるようにしています（例：時間の経過がわかる時計、など）	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		毎日の清掃とともに、本や文具、遊び道具などの整理整頓を心がけ、利用児が使いやすく快適に過ごせるような環境づくりを行っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	1	・小スペースや仕切りを利用して、個別の対応ができています。	子どもの特性やその日の様子によって個室を利用し、より刺激が少ない環境を整えることがあります。特別なカームダウンスペースはないので、今後検討していきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		・定期的なミーティングを通して、意見交換ができていると感じます。 ・業務改善のための問題提起がしやすい職場環境ができてきており、すぐにmtgを持って解決策の検討をすることができている。結果の振り返りも行われ、次の改善に繋げていくことができるようになってきている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1		今回の評価を元に、更に良い支援が行えるよう業務改善していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・全員が意見を言いやすい環境が作られています。 ・1on1やスタッフmtgで意見を把握し、検討することができていると思う	毎月１on１の機会が設けられ、同じ事業所の中でも、千葉の事業所スタッフや統括責任者とも意見交換ができアドバイスを貰うことができています。また定例ミーティングだけでなく、必要時に必要なメンバーでのミーティングを組むこともでき、意見交換の機会をつくることへの心理的ハードルが低い会社だと思います。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	3		第三者機関による外部評価は行われていません。

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		法定研修だけでなく、社員のスキルアップにつながる研修（オンライン）が多数組まれており、日々自己研鑽に努めています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	1	ジョイーレHPに公表されている個別療育プログラムに基づき、利用児の発達段階に合わせた一人ひとりの支援プログラムを作成、個別支援計画で保護者にお伝えしています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		適切なアセスメント、子どもや保護者のニーズや課題を反映して立案するよう努力しています	保護者面談や保育所等訪問支援などによる園での様子、ジョイーレでの療育などの様子などの情報を集め、適切なアセスメントを行い、子どもと保護者のニーズや課題を反映させた実効性のある計画の策定を心がけていきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		児発管が作成した個別支援計画原案を、子どもに関わる全職員で確認、修正を行い、本案作成を行っています。支援目標を職員全体が理解し、支援を実施できるようにしています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	4		HUGの記録は個別支援計画に沿った枠組みになっており、日々計画を意識して支援を行い、保護者へ報告しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1		現在標準化されたアセスメントツールは使用していませんが、今後、必要に応じ導入を検討していきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4			放課後等デイサービスガイドラインの「本人支援」「家族支援」「移行支援」については意識して計画を策定していますが、「地域支援・地域連携」については今後地域の資源や受け入れの状況などに付いて情報を集め、計画に取り入れていきたいと思います。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		個別支援計画に基づき、支援チームがミーティング行い、実効性のある活動プログラムを立案して支援を行っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		活動プログラムの見直し(マンネリ化、子どもに合っていない、など)についてもmtgなどで検討している 課題整理のためにスプシを作成して石垣スタッフで共有している	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		放課後等デイサービス支援計画には個別支援だけでなく、集団活動も取り入れている。 個別支援計画の目標に基づき、個別支援とグループでの活動を適宜組み合わせてプログラムを作成し、支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	2	毎日の支援の確認は主に社内チャット（LW）で行い、送迎や見守りなどの分担は共通のスプレットシートで各自確認しています。	必ず毎日はできていないため、毎日行われるような改善が必要
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	2	2	支援終了後の打ち合わせはミーティングでは行っていませんが、HUGの記録をお互いに確認し、連絡事項は社内チャットで共有しています。	必ず毎日はできていないため、毎日行われるような改善が必要
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		HUGの記録は支援終了後できるだけ早急に書き込み、支援の検証、改善に繋げています。	

	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		半年に一度、また状況に変化があった時には保護者や支援チームにモニタリングを行い、計画の見直しを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4		「自立支援と日常生活の充実のための活動」「多様な遊びや体験活動」「地域交流の活動」「子どもが主体的に参画できる活動」を意識した支援プログラムを作成しています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		支援プログラムを決める際には、できるだけ子ども達と話し合います。子ども達一人一人が自分の意見を持つ人格であることを忘れずにコミュニケーションをとることを支援スタッフも意識して対応しています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		出席可能な時間帯の会議の時には、よく関わっているスタッフと一緒に参加するようにしている	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1		保健所、医療、基幹相談支援、子ども家庭課などとは連携の道を作りやすいが、学校とは十分な連携がなかなか取れていません。信頼関係の構築が課題となっています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4			学校ごとに対応が違うこと、保護者によって連絡いただけないこともあり、適切な対応が取れないこともありますが、できるだけ確実な情報を入手できるよう努力していきます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	1		今のところ進学前の学校との連携まではほとんど行えていません。また事業所間の連携もセルフプランがほとんどな為、なかなか担当者会議が開けておらず十分にはできていませんでした。次年度の努力課題となります。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		高校を卒業始障害福祉サービス事業所に移行する際、情報提供の会議をお願いしています。今後も本人や保護者、学校に働きかけていきます。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	2	2		石垣市には児童発達支援センターがありません
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	2		中学生中心のメンバーであるため、今後地域との交流については利用児の希望も聞きながら検討していきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4		機会があれば参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		お迎えに来ていただく保護者には、今日の様子をお話しながらお家の様子もお聞きしてコミュニケーションを取るようにしています。また、HUGには今日の活動の様子を、時には写真も使用してご報告しています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		八重山地区自閉症児の親の会「ちむほっと」定例会のお知らせなどを全保護者に送っています。その中でセルフプランの研修やペアトレについても情報提供しています。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	1	ご利用スケジュール、プログラム、利用者負担額については、初回面談の際にご不明な点がないように説明しています。また面談後もHUGやLINEWORKSなども利用しながら、疑問点にお答えして対応しています。	

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		定期的な面談や都度都度のご連絡、ご相談等で保護者（こども）の意向を確認し、支援計画に反映させるようにしています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	3	1	個別支援計画はHUG上で確認、同意を頂いています。また新規作成時やモニタリング面談で意向を確認し、説明を行っています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		困り事などの連絡があった時にはLINEや電話、面談で相談に乗っている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	1		八重山地区自閉症児の親の会「ちむほっと」の定例会のお知らせを全保護者にLINEで送り、交流を望む保護者に情報提供しています。きょうだい児の交流等については今後検討していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		子どもや保護者からの苦情に対してはマニュアルに基づいて状況把握し、責任者へ報告して子どもや保護者へ真摯に対応する体制を整えています。また事業所内だけでなく全事業所で情報を共有し、児発管ミーティングで原因と再発防止のための検討を行っています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		ジョイーレのHPやYoutubeなどで事業所の活動の様子をお知らせしています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報の取扱については繰り返し研修を行い、また就業規則によってスタッフ一人ひとりが退職後も外部に漏らすことがないようにしています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	1		利用児各々の特性に応じ、サインやカードなども利用して伝わりやすい方法を工夫しています。保護者へもより伝わりやすい方法を工夫していきたいと思います。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3	夏休みなどにSDGｓや英会話ワークショップをお願いして地域の方のご協力をお願いしてきました。今後も相互理解のために交流できる機会を作っていきたいと思います。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4			マニュアルは作成し、定期的な訓練の実施を計画していますが、保護者への周知は殆どできていません。今後周知の方法について検討していきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	1		BCPを策定しています。避難訓練については定期的な実施ができるよう計画していきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		てんかん発作や難病の利用児について内服薬の確認や受診の際の情報を入手し、緊急時の対応に備えています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1	食物アレルギーのある利用児については、どういうもので症状が出るのか、またその時の対応について書面で確認しています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			安全対策マニュアルに基づいて支援を行うとともに、必要な研修や訓練も適宜行っていきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	3	1		安全対策マニュアルに基づいて事故対応を行うことになっているが、保護者への取り組みの周知はまだ不十分です。次年度取り組んでいきたいと思います。

	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハット事案については、朝回での情報共有、ヒヤリハットシートでの全事業所との情報交換、児発管ミーティングでの検討と注意喚起を行い、再発の防止に努めています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		オンラインによる研修など、機会があれば積極的な受講を行なっています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	1	3		現在まで身体拘束が必要な利用児がいなかったたが、虐待防止マニュアルなどに基づき、必要な事案があった時には切迫性、非代替性、一時的のルールを守り、保護者やこどもに十分に説明して行っていきます。